

戦後レジーム（体制）からの脱却

第一次安倍政権の所信演説である。戦後、この表現を使ったのは唯一安倍さんだけである。いわゆる東京裁判史観やWG I P（戦争犯罪情報計画）による自虐史観、日教組の存在、自衛隊の存在意義、GHQが適当に作った憲法の改正も必要だし、（作成した米国人が、まだあんな憲法を使っているのか！と驚いた。）最終的には、米国の属国のような状態から対等にもっていきたい。短く言えば、朝日新聞が、自虐史観で「暗愚な」国民をだまし続けてきたことをひっくりかえすことである。

しかし、安倍首相が、病気のために1年間で政権を投げ出した。この間、同じように1年間で投げ出した人と比べると、重要な法案をいくつか成立させている。その後、たかじんの番組に出演したとき、故三宅久之氏が、帰る安倍さんに、「いずれ国家のために命懸けで働く日が来るでしょう。おん身大切に」と労わるように厳粛な表情で言われた。

民主党政権で、冗談ではなく、国家の滅亡が目に見えるようなことが続出し、こういう危機管理のできない政権時には往々にして天災地変が起こる。天人感応説を裏付けるように、東日本大震災が発生した。（佐々淳行氏が自著を上梓したあと3日ほどしてから発生した。佐々さんに胡散臭さがあったら、なんとか教の教主になれるかも知れない。）

そして、朝日にとってはまさかの第二次安倍政権である。朝日新聞の星浩が、「慰安婦問題をどうするのですか？」とたずねたところ、安倍さんは、「あなたの新聞が吉田清治という詐欺師の嘘を広めた。それが“慰安婦問題だ”」と切り返した。「あなたの新聞はフェイクニュースを流している」と指摘した。いきなり、メディアに正面切って喧嘩を売ったのは安倍さんだけである。朝日は必死になって安倍つぶしに狂奔したが、結局フェイクニュースを認めざるを得なかった。2年後に吉田清治がらみの記事の削除を語り、もう1本のフェイクニュース、東電・吉田調書問題も付け加えて木村社長の首を差し出した。・・・安倍さんは、前回の失敗に配慮し、慎重であった。10数人以上の閣僚が必要である。なかには、適性のない者もまじるのは仕方がない。

国会議員のなかには、党派をとわず、専門分野の知識を得る努力を怠り、利殖や権力欲のためだけに議員になった者もいくらでもいる。いずれにせよ儲かるらしい。二世三世議員がふえるのもやむを得ない。この中でも玉石混交であるが。

安倍さんの支持率が高かったのは、たとえ支持率が落ちても国を守るためには仕方がない、と承知の上で多少の無理をしたこともある。ここでは、多分これが原因だろうと思われる支持率が下がった件に問題を絞る。

最初は、森友学園の学校建設に安倍首相が便宜を図ったからではないか、というもの。しかし、これはまあ、詐欺のようなものだからそれほどでもなかったが、今治に首相の友人が獣医学部を新設するのに、安倍さんのごり押しがあったからではないか、との疑惑を、朝日をはじめテレビもマスメディアが持ったからである。（これに関しては次回にもまとめます。）これに乗じて安倍政権下で冷や飯をくわされていた連中が蠢きだし、安倍の驕りやら閣僚の失言やら、頼りなさやら、事務が政治によって歪められたなどと「証言」する元事務次官まででてきて、朝日など鬼の首でも獲ったかのごとく、連日誹謗中傷の連続があったからである。

櫻井よし子さんのコラムを読めば、「この加計学園の獣医学部新設に関しては、加計氏と安倍首相は長年の友人であったけれども、私情をはさむ余地がない。だから、安倍さんは、この問題についてはまったく関係がない」ということである。支持率が下がったのは、残念ながら、日本人の（国民性と言ってもいいと思うのだが）他人の幸福を妬む気持ちからである。自分がその地位にいたらしたろうと思うけれども、その地位にいなかっただけで・・・という嫉妬心からである。安倍首相には、私利私欲はない。あるのは、この日本をどういう方向にもっていくか、という理念と戦略だけである。だらけた国会議員や役人に対しても、青山繁晴氏を口説いて国会議員にしたことを思い出せばいい。

安倍さんの業績はいくつもあるが、集団的自衛権など安全保障関連法案、特定秘密保護法、テロ特措法、オバマ大統領の広島訪問、ヨーロッパ歴訪、就任前のトランプとの対談、返す刀でプーチンとの会談などなど、内政のみならず、外交面でもいくつもある。

ある日、ひょいとテレビをつけると、元防衛大臣の中谷某が、民主党の仙谷某と対談している。それほど懸命に聞いていたわけではないが、安倍さんの支持率低下は、中谷の言うのには **T h i s** だという。こまかいことは覚えていないが、ひとつは、稲田防衛大臣の失言と **PKO** 日誌の隠蔽（この人は初めからあぶなっかしかったが）。ひとつは「夕陽の鬼瓦」（三宅久之氏）のような顔のオネエチャンの「このハゲー！」という秘書いじめらしい。大臣の失言は任命責任があるから責められてもいいが、夕陽の鬼瓦の件は、個人の人格の問題で、安倍さんはまったく与り知らぬことである。これらはまったく次元の違う話だろう？ それを強引にごっちゃにして、「安倍攻撃」の材料にしている。

大体、仙谷あたりと対話する神経がわからない。2010年、中国「漁船」の海上保安庁の船に対する体当たりで、この映像を国民には見せず、丁重に中国まで送り返した。さすがに腹に据えかねた海上保安庁隊員がこの映像をオープンにしたら「国の機密を漏らした国家公務員法 100 条『守秘義務違反』の犯罪者で、調査

を捜査に切り替え、逮捕したら罰則に処する、といった。これを聞いて一色春海氏が名乗り出た。領海侵犯、公務執行妨害の実態は国民に見せるべきである……当然、処罰どころか、民主党政権の中国べったりが露わになって、お咎めなしである。(いや、ひょっとすると、政府の無能さを明らかにしたから、国家機密漏洩罪で有罪になるかもしれん。) あるときには、自衛隊を「暴力装置」とまで言い、直後の東日本大震災に際し、いったいどれほどの自衛隊員が不眠不休で救助活動に活躍したか！

天皇陛下が、わざわざ自衛隊の隊員をねぎらったのは、戦後初めてのことだという。

さて加計問題である。加計氏が長年の安倍さんの友人であったことから、初めから出来レースで、加計氏に便宜をはかったのではないか、ということである。民進党の(頭が悪い、問題の把握能力の乏しい連中の)質問は、何月何日にどうした、などしか聞けない。問題の本質がわかっていないのではないか？ここにややこしいのがしゃしゃり出てくる。元文科省事務次官前川某は、政治によって事務が歪められたというけれども、それならなぜ職を賭してでも諫止しなかったのか。歪めていたのは、文科省と日本獣医師会の連中ではないか。それを正常にもどしただけのことではないのか！ ちなみに、この元次官の座右の銘というのが、「面従腹背」らしい。私が信用している評論家や論客が3人、同じく「クズ(屑)」と、それぞれ独立して評価した。……このような次官がでてきたのは、天下りの斡旋をしたためにクビになった腹いせ、意趣返しらしい。この次官が出てきて、風俗好きが露見し、「貧困女性の実態調査」というが、そんなもん、もっと下っ端の連中がすることで、大体、風俗で貧乏な女性はいないだろう。30回行かなければわからないようなものではない。すると、この次官は、ただの変態じゃないか。さらに、この次官は、天下りの斡旋に対し、部下のクビを差し出し、自分は延命をはかったとして、蓮舫や新聞、テレビまでもが、「人間のクズ」とまで評価していたのが、安倍さんの問題がでてきたら、英雄扱い。文科省の若い連中は、面従腹背だと思われて迷惑しているらしい。……庶民の生活レベルの調査でいえば、大蔵省のノーパン・しゃぶしゃぶで接待をうけていたのがばれたとき、恥も外聞もない、これを禁止したら世情に疎くなる、と言ったとか。一般人が接待でノーパンなんかというのは、ありえない。接待で民情がわかると思っているのも片腹痛い。

ここで最も信頼できる証言がある。偏向の朝日など、ほとんど無視に近い形でごく僅かを報道しているが、あまり嘘ばかりも問題になるから、ついでに、といった感じの記事である。元愛媛県知事加戸守行氏が語る。この方は、鳥インフル

エンザや口蹄疫に際し、70歳過ぎて（つまり退役）から駆り出された獣医師も大勢いるが、それでも人手が足りないことを確かめている。「そこで十分な準備をして2000年頃からずっと今治市と協力して地元の熱意と夢を担って、獣医学部新設を働きかけてきました。（四国では鳥インフルエンザがでていないじゃないか、と言った委員がいるらしいが、馬鹿だな、こいつは。大事な人が病気になってから医者になろうとしても、少なくとも6年間はかかる。そういうのを泥縄と呼ぶ。）私たちの特区申請は、何回も門前払いを食らい、口惜しかった。一番強く反対したのが日本獣医師会でした。四国全体の夢として準備を重ね、今治が最適だという自負があります。安倍首相と加計さんが友人であることとはまったく無関係です。」つまり県知事は獣医学部を新設したい。これに加計さんが賛同したもので、彼らが初めから組んで企んだことではない、ということである。2000年なら、安倍さんが口を出す必然性もないし、政権の代表でもなかった。

また、内閣府・国家戦略特区ワーキング・グループの原英史委員が怒る。

「加計学園問題の真の問題は、獣医学部新設禁止の異様さです。数多ある岩盤規制の中でも獣医学部新設の規制はとりわけ異様です。（中略）どれだけ素晴らしい提案でも、新規参入はすべて排除する。こんな規制は、他にはありません。……この岩盤規制が法律ではなく、文科省の告示で決められていることです。国会での審議も閣議決定もなしに、文科省が勝手に決めた告示です。」……この原因が獣医師会の既得権益が脅かされることへの警戒心です、ともいう。

京都は、四国にできるなら、と手を挙げただけで、今治とは、準備態勢については雲泥の差だった。

戦後レジームには、こういう利益団体と木っ端役人との癒着も当然含まれるであろう。これを正すことのどこがいけないのか？

振り返って考えてみればいい。民主党が政権をとるとき、「官僚主導」をなくし、「政治主導」をおこなう、といていたではないか。今回の問題は、まさに政治主導の典型ではないか。さらには、民進党の玉木議員の父親は、香川県獣医師会副会長、弟は獣医師だという。ここらに答えの一端が潜んでいそう。だから、ゴルフの時に加計さんが安倍さんに依頼したのではないか、を匂わせて、日付ばかりを質問するのである。

まったくバカな話で、要するに、安倍さんが辞任する必要はまったくない。さらに大きな問題点は、ではつぎに誰が首相になるの？ われわれ納税者が納得できる人材は、いくらでもいるのでしょうか。憲法改正や対等の立場での欧米との外交。

ボクはゴルフをしたことがないが、ゴルフの最中に依頼事をする余裕などある

のだろうか。多くは、ボールを探したり、自分と相手のスコアが気になって、それどころではないのではないかと。そういう日付ばかりを尋ねる連中は、そのようなことやもっと小さな、例えば就職の斡旋など、問題の依頼を今までにうけてこなかったのだろうか？自分がすることは他人もするだろうというさもない考えの持ち主ばかりやないか。病院でもそうで、議員さんの紹介なら早く入院できる。

安倍さんの支持率の低下にはいくつかの原因があるだろうが、国民は、思っているほどひどくないと考えたい。オーイ、気を付けろ。こいつらは、一見馬鹿のように見えるが、実はバカなのだ！

2017.07.27.

(この稿、次回に続きます)